

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
音楽Ⅱ	2	2年1類A型、3類	選択必須

授業担当者	教科書名	副教材等
****	MOUSA 2 (教育芸術社)	教科書付属 CD・DVD 音楽史・楽典ノート

科目の到達目標  
音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を培うとともに、感情を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。

評価の観点と方法について

- ・「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の3つの観点から評価する。
- ・授業への取り組みの姿勢や、決められたルールを守っているか。
- ・音楽に対して楽しみをもって授業を受けられているか。
- ・演奏方法や各自の苦手等に柔軟に対処し、応用できる能力を持っているか。

		学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一学期	4	〈表現〉 ・楽典	・一年次で習ったことの復習と補足説明をして理解を深めていく。	・復習に加え、楽譜に出てくる記号について新たに取り組む。	・楽譜が読めるようになる。
	5	〈合唱〉	・歌詞、楽譜を解説し工夫して歌う。	・季節にあった爽やかな曲を選曲し、生徒に親しみを持たせる。	・歌詞、楽譜を理解し、歌うための工夫を凝らしているか
	6	〈鑑賞〉 ・「天使にラブソングを」 ・「のだめカンタービレ」	・うたの楽しさを感じ取る。 ・映画篇、全曲を通して、音楽の醍醐味を感じ取る。	・実際に合唱に取り組み、歌う楽しさを体感する。 ・ドラマを媒体に聴き、知識を付け、感性を育む。	・うたの素晴らしさを感じて鑑賞できるか。 ・交響曲、協奏曲、独奏曲等の構成を理解し幅広くクラシック音楽に関心を寄せているか。
		〈実技テスト〉 ・うた			

		学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	〈表現〉 ・グループアンサンブル (・キーボード・リコーダー)	・大人数また少人数のアンサンブルを楽しむ。 ・他のグループの演奏を聴きあう。	・叩く場所や強さによって音色や音量が変化することに気付かせる。 ・グループで曲、演奏形態などを話し合い、成果発表会に向けて工夫、協力を思考させる。	・協力し合い演奏出来たか。 ・グループで助け合いながら目標に向かっていているか。
	10	・発表会	・グループで練習してきた成果を人前で発表する。	・発表するマナー、また聴くマナーを守る。	・練習の成果を発揮出来たか。 ・他のグループも尊重し、慎みを持って関わられたか。
	11	〈鑑賞〉 ・「スクールオブロック」	・器楽合奏の面白さに気付く。	・様々な音楽の在り方を発見・発掘させる。 ・実際に器楽アンサンブルをし、合奏の楽しさを体感する。	・音楽の多様性を受け入れる。
	12	〈実技テスト〉 ・グループアンサンブル			・全てにおいてバランス良く評価する。
三 学 期		〈表現〉 ・おうた「やまさかや」  ・音楽史(西洋音楽史)  〈実技テスト〉 ・筆記テスト	・おうたを知り、卒業式の式典で歌えるようにさせる。  ・クラシックの歴史を辿る。	・CDやDVDを使用し、おうたの存在意味や価値を理解する。  ・古典から近現代までの代表的な人物と楽曲を知る。	・音楽・歌詞を理解しようとし、積極的に歌おうとしているか。 ・人物と楽曲をおさえ、時代による音楽の違い、特徴を理解する。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
美術Ⅱ	2	第2学年1類A型・3類	選択
授業担当者		教科書名	副教材等
****		日本文教出版 高校生の美術2	「美術全集」

<p>科目の到達目標</p> <p>美術Ⅰをもとに、より深く幅広い内容とする。</p> <p>創造的な工夫を意識した課題を通して表現力を高める。そして現代美術の鑑賞・実技へと移行し、自己の価値観を高め美術文化についての理解を深める事で個性豊かな美術の能力を高める。</p>
--

<p>評価の観点と方法について</p> <p>制作過程の様子や完成作品による実技点と、平常点（授業態度等）を「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点をもとに、テーマの設定力や技法の開発工夫などが個性豊かで主体的に取り組まれているかという事に留意し、学期毎にABCの3段階で査定する。</p>
---

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一学期	4	オリエンテーション	高校美術Ⅱの内容を理解する	教科書、美術全集などの資料鑑賞	学習内容に関心を持つ
	5	鑑賞（西洋彫刻史）	カノン等美の法則を学び、石膏デッサンの導入とする。	古代ギリシアから近代までの石膏像と現代作品の画集で鑑賞する。	目で見て、表現の違いに気付く。
		絵画（石膏像デッサン）	物の見方を学び客観的表現を充実させる。	石膏像を鉛筆で描く。講評で要点を確認徹底する。	構図の安定 形の正確さ 明暗調子の理解 観察力
	6	絵画（石膏像ハイコントラストデッサン）	見たものを明快に表現する	前課題と同一石膏像を墨で素描する	明快なイメージ 強い表現力
7	デザイン（マーブリング表現）	使えるものをつくる	紙をマーブリングで染め、テーマにそって工作し、ラミネート加工する。	実用性と美しさ	

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	デザイン(立体構成)	イメージを立体で表現する。	各自テーマを決め、針金で自由に構成する。	多面的に形体を追求できる。
		鑑賞(現代美術)	表現領域の広さを学ぶ。 (イメージ画の導入)	教科書、美術全集で主要な現代作品を鑑賞	現代美術の幅広い表現に関心を持つ。
	10	絵画(イメージ画)	表現の幅を持たせる。 心の表現を試みる。	課題テーマ、自由テーマをフロッタージュ・デカルコマニー等の技法を駆使して表現	技法の開発 意図に応じた表現方法を使う。
	11	彫刻(塑像から彫刻へ細密表現)	一つの主題を幅広い技術で追求し、完成度の高い表現をする。	各自テーマを決め、フォルモ粘土で塑造し、乾燥後、緻密に彫刻し、彩色もする。	計画的に制作プロセスを考える。 完成度
	12				
三 学 期	1	鑑賞(デッサン)	素描表現の深さを知る。	教科書、素描集で鑑賞	素描表現に関心を持つ。
	2	絵画(点描デッサン)	技法を限定する中で、深い追究をする。	静物を観察し、ペンで点の集合で描く。	緻密に調子を観察する。 完成度
	3				

その他 ( 履修上の留意点・大学進学のための学習など )

作品課題は真剣に取り組み、参考作品や資料・道具などは大切に扱う。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
芸術科（書道Ⅱ）	2	第2学年1類A型・3類	選択
授業担当者	教科書名	副教材等	
****	教育出版「書道Ⅱ」	奈良県高等学校書道教育研究会「高等書範」	

<b>科目の到達目標</b> 漢字、仮名は、古典に基づく表現形式と工夫を養い、漢字仮名交じりの書については、名筆に基づく個性的な表現と工夫を迫及し、書道の創造的な活動を通して、書を楽しむ心と感性を育てるとともに個性豊かな表現と鑑賞力を伸ばすことを目的とする。
--

<b>評価の観点と方法について</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 書を愛好し、書写能力を高め、意欲的に表現や鑑賞の活動を行う。</li> <li>・ 感性を豊かにし、書的美しさを感じ取り、創造的な表現を工夫する。</li> <li>・ 自己を主体的に表現するために、基礎的な技能を身につけている。</li> <li>・ 書の効用や表現を幅広く理解し、そのよさや美しさを深く味わう。</li> </ul>
○ 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の3つの観点から評価する。

	月	学習単元・教材	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一学期	4	隸書による学習 「曹全碑」	基本的用筆の理解と表現の多様性	種々の古典について表現の多様性を理解する 用筆、運筆、字形について理解する 半紙を横長に4文字書	「知識・技能」 「思考・判断・表現」 「主体的に取り組む態度」の3つの観点から評価する。
	5	隸書による学習 「乙瑛碑」  仮名の書 「高野切第一種」	曹全碑との比較から整齊さや筆法、結構の違いを知る  連綿の特徴や技法の習熟 更にきめ細かな鑑賞と分析から美しさを知る	半紙を縦長に6文字書  古筆の中に用いられる代表的な連綿の技法を理解する	
	6	高等書範（1号） 漢字の書 仮名の書 漢字仮名交じりの書	自分なりの表現意図を生かした創意	3分野のうちから2つを選択する 半紙四文字の適当な整え方の理解 書の特徴を意識し技法を習得する 篆書・隸書と仮名の融合をはかる	
	7	天高祭展示 自由作品制作	幅広い書の創造をし、学園祭で展示する	図書室の利用など、幅広い題材を探り楽しく制作する	

	月	学習単元・教材	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	高等書範（昇級） 漢字の書 漢字仮名交じりの書 仮名の書	自分なりの表現意図を生かした絵意	教科書に掲載されている作品すべてを鑑賞し、書風を選択する 多様な作品例により比較鑑賞しながら作品制作する	「知識・技能」 「思考・判断・表現」 「主体的に取り組む態度」の3つの観点から評価する。
	10	漢字の書（創作） 仮名の書（創作） 漢字仮名交じりの書	自分なりの表現意図を生かした創意 古典の匂いが残る書为目标とする	漢字や仮名で学んだ様々な筆法を基に、意図・イメージを高め、幅広く表現する	
	11	高等書範（2号） 漢字の書 仮名の書 漢字仮名交じりの書	自分なりの表現意図を生かした創意	3分野のうちから1つを選択する 文字の大小、墨の潤濁、線の太細など豊かで多様な表現を味わう 散らし書きの形式を研究し構成する 運筆のリズム、墨の濃淡、筆圧、構成など幅広い表現を探る	
	12	漢字の書（細楷） 「墓誌銘」	きめ細かな鑑賞と分析、更に伸びやかな線質を目指す	正しい姿勢、基本用筆、腕法を確認する	
三 学 期	1	仮名の書 「関戸本古今集」	きめ細かな鑑賞と分析、更に伸びやかで特有の美しさを知る	正しい姿勢、基本用筆とリズムに注意する	「知識・技能」 「思考・判断・表現」 「主体的に取り組む態度」の3つの観点から評価する。
	2	高等書範（3号） 漢字の書 仮名の書 漢字仮名交じりの書	自分なりの表現意図が生かせるよう創意工夫し、2年間の集大成とする	3分野のうちから1つを選択する 初めて経験する色紙や画仙紙に表現することで、異なる感覚を発見する 筆圧の強弱・変化、運筆の遅速・緩急など種々の観点から研究する	
	3	漢字仮名交じりの書 「自作」		2年間の書道の学習を総括して、まとめの作品を作成し、充実感と達成感を味わう	

#### その他（履修上の留意点）

作品の技術的な到達度の評価とともに、各自の技術習得への真剣さや努力の度合い、用具用材の取り扱いや後片付けへの心配りなども評価に取り入れる。

進度により授業内容を変更する場合があります。

## 令和5(2023)年度 吹奏楽特講年間計画

日程	1 年 生 (4)	2 年 生 (4)	3 年 生 (4)
第 一 学 期	<p><b>【独奏訓練】</b> (初級) スケール、エチュード、独奏の各教則本を使用して個人技の向上を図る。</p> <p><b>【楽典・コールユーブンゲン・聴音】</b> (初級) 音楽の論理的な解釈法。音符の聴力、表現力の強化。</p>	<p><b>【独奏訓練】</b> (中級) スケール、エチュード、独奏の各教則本を使用して個人技の向上を図る。</p> <p><b>【楽典・コールユーブンゲン・聴音】</b> (中級) 音楽の論理的な解釈法。音符の聴力、表現力の強化。</p>	<p><b>【独奏訓練】</b> (上級) スケール、エチュード、独奏の各教則本を使用して個人技の向上を図る。</p> <p><b>【楽典・コールユーブンゲン・聴音】</b> (上級) 音楽の論理的な解釈法。音符の聴力、表現力の強化。</p>
第 二 学 期	<p><b>【独奏訓練】</b> (初級2)</p> <p><b>【楽典・コールユーブンゲン・聴音】</b> (初級2)</p> <p><b>【独奏発表・審査】</b> 独奏練習で取り組んでいる曲を発表と他の生徒の独奏を聴いて審査をする。</p>	<p><b>【独奏訓練】</b> (中級2)</p> <p><b>【楽典・コールユーブンゲン・聴音】</b> (中級2)</p> <p><b>【独奏発表・審査】</b> 独奏練習で取り組んでいる曲を発表と他の生徒の独奏を聴いて審査をする。</p>	<p><b>【独奏訓練】</b> (上級2)</p> <p><b>【楽典・コールユーブンゲン・聴音】</b> (上級2)</p> <p><b>【独奏発表・審査】</b> 独奏練習で取り組んでいる曲を発表と他の生徒の独奏を聴いて審査をする。</p>
第 三 学 期	<p><b>【独奏訓練】</b> (初級3)</p> <p><b>【楽典・コールユーブンゲン・聴音】</b> (初級3)</p> <p><b>【鑑賞】</b> プロの演奏家やコンクール等の映像を鑑賞し、レポートを書く。</p> <p>年間のまとめ</p>	<p><b>【独奏訓練】</b> (中級3)</p> <p><b>【楽典・コールユーブンゲン・聴音】</b> (中級3)</p> <p><b>【鑑賞】</b> プロの演奏家やコンクール等の映像を鑑賞し、レポートを書く。</p> <p>年間のまとめ</p>	<p><b>【独奏訓練】</b> (上級3)</p> <p><b>【楽典・コールユーブンゲン・聴音】</b> (上級3)</p> <p><b>3年間のまとめ (卒業演奏発表)</b></p>